



須和間幼稚園 ● 菊田日和ちゃん

夏祭り

幼稚園の夏祭りで太鼓をたたいた時の様子を描いてくれた日和ちゃん(6歳)。「年長組のみんなと一緒に太鼓をたたいたの。すごく楽しかった!」と、その時の様子を思い出しながら笑顔で話してくれました。

ぼくの夢 Dream-90 わたしの夢



夢は…。 “大工”

村松小学校6年 ● 沼田慎吾

僕の将来の夢は大工になることです。そう思ったのは、2年生の時におじいちゃんにくぎの打ち方を教えてもらったことがきっかけです。「うまく打てるかな…」と心配している僕に、おじいちゃんは「大丈夫、慎吾ならできるよ」と言ってくれました。それで僕は、思い切って初めてくぎを打ったのですが、そのくぎは見事に曲がってしまい、失敗でした。でもおじいちゃんが「真っすぐに打ってごらん、次はできるよ」と励ましてくれたので、もう一度挑戦すると今度はちゃんと真っすぐに打つことができました。「やったー!ちゃんとできたー!!」。僕は思わず大声を出して喜んでしまいました。

その時から僕は、くぎを打って物を作り上げていく世界に引き込まれていき、将来は大工になろうと決めただけです。夏休みには、おじいちゃんと一緒にいすや本棚を作ってみようと思います。

わが家の子育て奮戦記

表紙の「ひと」 高田幸江



わが家の子どもたちは3人。長女の幸穂(5歳)は村立幼稚園の年長組、二女の真幸(3歳)は早めに集団生活をさせたので日立市の幼稚園の年少組、長男の幸篤(1歳8か月)は甘えん坊の男の子です。朝は村内と日立市の幼稚園に子どもたちを送り、少しの間だけ幸篤と2人で遊び、昼過ぎにまたそれぞれの幼稚園に迎えに行きます。帰宅しても疲れ知らずの3人は、狭い部屋で鬼ごっこ…かと思っただけ、けんかが始まり怒られていますが、めげない子どもたちです。おなががすくと騒ぎ、おなががいっぱいになると3人一緒に布団で絵本を読んで寝てしまいます。3人の寝顔を見て今日も一日無事終わったとホッとする毎日です。休日は私の両親も子育てに参加してくれ、子どもたちの好きな所へ連れて行ってくれたり、しつけや勉強について私の子育てで足りない部分をしっかりと補ってくれる大切な存在です。子どもたちは、そんなじいじとばあばが大好きです。3月に東海村に引っ越してきて親子ともども新しい環境にとっても不

安でした。幸穂は転入初日、涙を流し教室に入れませんでした。その姿を見て、子育てに未熟な私も不安でしたが、クラスの友達や先生方が温かく迎えてくれ、今では大好きな友達がたくさんでき、とても楽しく幼稚園生活を送っているようです。私も同様に周囲のお母さんたちの優しさに触れ、心強くなりました。以前、子育ての壁にぶつかったときに利用していた児童相談所もあまり行かなくなり、その代わりに毎日会うたくさんのお母さんたちとの会話で子育てのアドバイスももらっています。新しい環境の中で人との出会いの大切さを感じた私は、子どもたちに、今まで出会った人たちやこれから出会うたくさんの人たちの優しさに対する感謝の気持ちを忘れずに歩んでいってほしいと願うようになりました。わが家は、みんなの名前に「幸」が付いています。子どもたちが名前のようにいつまでも幸せに笑顔でいられるよう、親である私たちも子どもとともに成長しようと思いつつ、明日からも3人の子育てを楽しんでいきたいです。